平成23年度 おおさき福祉の心コンクール

主催　社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会
後援　大崎市・大崎市教育委員会

入賞おめでとうございます

大崎市内の小・中学生を対象に、「思いやり」「助けあい」「支えあい」の福祉の心を育むことを目的に、「おおさき福祉の心コンクール」を実施いたしました。

それぞれの部門に、合計四四五点という沢山の作品を応募いただき、ありがとうございました。入賞された皆さんをご紹介いたします。

（敬称略）

◆福祉作文の部

〔小学生の部〕

◇最優秀賞
古川第二小学校　六年　菅井　一貴

◇優秀賞
長岡小学校　六年　浅野　恵一
西大崎小学校　四年　本多　海真

◇優良賞
鬼首小学校　四年　中鉢　伸吾
西大崎小学校　四年　佐々木　賢太
鹿島台小学校　二年　後藤　愛実

〔中学生の部〕

◇最優秀賞
古川南中学校　三年　星　優平

◇優秀賞
鹿島台中学校　二年　佐藤　亜美
鹿島台中学校　二年　鹿岩　真由

◇優良賞
古川南中学校　一年　西條　利緒
古川南中学校　三年　齋藤　宗一郎
古川南中学校　三年　金井　秋

◆福祉ポスターの部

〔小学生の部〕

◇最優秀賞
川渡小学校　六年　吉田　早希

◇優秀賞
宮沢小学校　五年　千葉　七海
岩出山小学校　三年　阿部　理久

◇優良賞
池月小学校　五年　大沼　愛佳
古川第五小学校　二年　阿部　慶佑
西古川小学校　二年　佐々木　涼花

〔中学生の部〕

◇最優秀賞
古川北中学校　三年　宍戸　友美

◇優秀賞
古川北中学校　三年　髙橋　佳奈
古川北中学校　三年　曽根　あかり

◇優良賞
鳴子中学校　三年　大場　優華

◆福祉標語の部

〔小学生の部〕

◇最優秀賞
古川第一小学校　四年　早坂　直記

◇優秀賞
古川第二小学校　六年　菊地　楓香
松山小学校　三年　加藤　春花

◇優良賞
鹿島台第二小学校　五年　鹿野　愛夢
西大崎小学校　六年　笠原　悠夏
志田小学校　六年　我孫子　唯

〔中学生の部〕

◇最優秀賞
古川西中学校　三年　阿部　歩美

◇優秀賞
古川西中学校　二年　髙橋　雅
古川西中学校　三年　佐々木　真利

◇優良賞
松山中学校　一年　中村　風花
古川西中学校　三年　笠原　優香
松山中学校　三年　千葉　友里

◆福祉書道の部

〔小学生低学年の部〕

◇最優秀賞
富永小学校　二年　工藤　里菜

◇優秀賞
古川第三小学校　一年　伊藤　瑠花
古川第三小学校　三年　石堂　翔太

◇優良賞
三本木小学校　三年　青柳　花
岩出山小学校　二年　矢内　未来
古川第二小学校　三年　佐々木　綾香

〔小学生高学年の部〕

◇最優秀賞
古川第三小学校　五年　熊谷　美優

◇優秀賞
古川第三小学校　六年　佐々木　音々
鹿島台第二小学校　五年　遠山　知優

◇優良賞
古川第二小学校　五年　蓬田　悠樹
松山小学校　六年　佐々木　とも子
古川第一小学校　四年　加藤　咲良

〔中学生の部〕

◇最優秀賞
古川中学校　一年　菅　汐里

◇優秀賞
古川西中学校　二年　大和田　志穂
松山中学校　二年　大黒　さき

◇優良賞
松山中学校　二年　原　泉美
古川中学校　二年　村田　里穂
鹿島台中学校　一年　荒　みなみ

〔福祉書道の部　最優秀賞〕

◇小学生低学年の部
富永小学校　二年　工藤　里菜

◇小学生高学年の部
古川第三小学校　五年　熊谷　美優

◇中学生の部
古川中学校　一年　菅　汐里

最優秀賞を受賞した皆さん

福祉作文の部　小学生の部

最優秀賞

子供に戻ったぴいちゃん

古川第二小学校　六年　菅井　一貴

ぼくのぴいちゃんは、オムツをはいています。

自分ではおしっこをしている事を忘れてしまうからです。

ぴいちゃんは認知症なのです。

認知症は色々な事を忘れてしまう病気です。

人の名前や物の名前をすぐに思い出す事ができないし、さっきまで自分が話した事を覚えていられません。何度も同じ話をするし、聞いてきます。

ぼくは五年生の時に塩釜から古川に引っ越してきました。それを忘れてしまうぴいちゃんはいつも、「一貴、古川にいつ遊びにきたの?」と聞いてきます。

ぼくは、「古川に引っ越してきたんだよ。」と答えますが、話した事を忘れてしまうぴいちゃんは、五分後にまた同じ事をきいてきます。

そして、ぼくの名前は一貴なのに「かずひろ」と時々呼ばれます。

ぼくのお母さんを塩釜のおばさんの名前で呼んだりもします。

病気の事を分からなかった時は、なんでなんだろうと、とても不思議でした。けれども、授業で認知症の事を知った時に、「ああ、今までのぴいちゃんの行動はこの病気だったんだ。」と思いました。

大人なのにオムツをはいている事を不思議でしたが、今ではそうは思いません。お母さんは、「年をとるとみんな子供に戻っていく。」と言っていました。まだその意味はよく分かりませんが、オムツをはいているぴいちゃんには優しく接してあげようと思います。

学校の授業で、認知症はやり方次第で進行をおそくできると知ったからです。

ショックをうけると早く進むし、余りショックをうけなければ進行がおそくなるそうです。怒られたり、いやな思いをすると病気は進むそうです。

だからこそ、ぴいちゃんには怒ったりしないで優しくしたいと思います。

ぴいちゃんは、デイサービスで作ったものをぼくに見せてくれます。楽しそうに作ったものを説明しているぴいちゃんを見ると、ぼくもうれしくなります。

ずっと楽しく笑っていてくれたら、とてもうれしいです。

ぼくのもう一人のぴいじいちゃんは、ねたきりです。佐沼に住んでいて、毎日ヘルパーさんが来ています。

ぴいじいちゃんも忘れっぽくて、オムツをはいています。ねたきりで、あまりする事がなくて忘れっぽくなったのではないかと心配しています。

人と話す事が少ないと認知症を発症しやすいからです。

ぼくの名前はまだ間違えませんが、同じ事は何度も話します。ぴいばあちゃんとにています。

これから先に、二人は色々な事を忘れてしまい、ぼくの事さえ忘れてしまうかもしれません。もし、そうなってしまっても、ぼくは二人のぴいちゃんに優しく接したいと思います。

楽しく笑って、二人には長生きしてほしいです。

福祉作文の部　中学生の部

最優秀賞

思いを結ぶ絆

古川南中学校　三年　星　優平

「人は助け合って生きている」

震災を経験する中でこのことを強く思った。

三月に起きた大震災、この震災で宮城県は大きな被害をうけた。特に、沿岸部の地域は津波の被害が大きく、壊滅的な状況だった。

私の学校では新学期を迎え、今までと同じような生活が始まった。でも、テレビや新聞を見ると、未だに多くの人達が避難所で生活をし、そして、助け合っていた。中学生や高校生がボランティア活動をしている様子が私は特に印象に残っている。

地震のあと、私たちも大変な生活をしていた。ライフラインと呼ばれる電気やガス、水道が止まり、とても寒く、また、料理をしたりするのも、お風呂に入ることもできなかった。それに、食料やガソリンなど、普段生活でかかせないものを買うことにも、何時間も待たなくてはいけず苦労した。でも、津波の被害にあった沿岸の人々は、私たちよりもずっと大変な思いをしていたはずだ。そんな中でも、自分のことだけを考えず、お年寄りや小さな子供のためにと一生懸命ボランティアをしている人々がたくさんいた。同じ中学生もがんばっていた。私はこの姿を見て、少しでも力になりたいと強く感じた。

自分たちにできることはないだろうか。自分たちには何ができるのか。私は生徒会で話し合った。直接被災地へ行ってボランティアをすることはできない。でも、募金活動だったら私たちにもできる。そして、私たちは、一週間募金活動をすることにした。

朝七時四十分から八時まで、生徒昇降口に立って募金を呼びかけた。毎朝、毎朝、多くの生徒が募金をしてくれた。一日ごとに重くなっていく募金箱を持ち、私はとてもうれしかった。被災地のために、少しでも力になりたいという思いはみんな同じなのだと感じた。

休みの日は、近くのヨークタウンの前でも募金活動をした。そこでも多くの地域の人々が協力してくれた。「休みの日なのに本当にえらいね。」「がんばってね。」などという言葉をかけてくれる人もいた。たしかに大変ではあったが、こんな言葉をかけてくれる人がいてうれしかった。また、私たちの活動が被災地の復興につながると考えると大きな達成感をもつことができた。

そして、私たちががんばったかいがあり、予想以上の金額が集まった。一人一人の小さな思いが大きな力となり、被災地の復興へつながったのだ。

私は、この経験を通じて一人一人の思いや絆を知り、人は助け合って生きているということを改めて感じた。

そして、私たちのボランティア活動が、協力してくれたたくさんの人の思いを運んで、被災地の人々を救うエネルギーになっていることを願う。

人々の思いを結ぶ絆をこれからもつないでいきたい。